

卷之九
五

9
3585
12



曾門
號 355
卷 12

三

高島氏
源氏物語系と云々

或人の為と目錄

- 一 御所のふぐれのおしん同書の手
- 一 村掾 祇貞女なるかゝる書
- 一 女もとりんすべしとの事 付 女の文字をいふ事
- 一 源氏物語系と云々
- 一 男子の美事なる女なることと云々
- 一 幼女と云ふはくすくすといふ事
- 一 今や小あ乃事
- 一 妙なりしに胃に云々と云ふ事
- 一 宮貝のりやうしんの手
- 一 貞女の危よかりぬと云ふ事
- 一 登れ事

明治二十一年五月

坪内祐藏氏寄贈

あし一

門口 9
3585
卷 12

一 小判の入り女子の男子に妻後せでもふけず
一 婦人の園屋に日紙送りと云ふ空季折く花見せ
一 一しりの舞女

一 あり母女子の文をたそぢめり
一 家美なりありありとてふ若しり事

あつひのキコト

或同公女子の教戒と云に君子の文をとりしらず
ぬるれおとらるに何佛のや源氏物語の云ふは
え思退て棄ずるに源氏物語と見らる人おほは
かりしとてゆりてを世れ京双剣の類え文書お
り後とて人むとらるわい漢人ともまどくは
知くはむつしとて魂や女子十人が九人のむまかり
書にむらてもひとくは育目の日にじよとてわあ
ハ日本の風俗とてゆりて伊勢物語源氏物語の
あまねこれとてら女子のむむかるとい
ねとてゆりては金祈通とてい
そとて入りの多し又文書とてい

東京
餘
坪
内
雄
藏

あつて唐國より素業經の朝弄とものこぼれ文
 ぎらりのものもやくは文育にたりとらん
 識といふもろくもろくは六徳待文のこころを
 得くん法れ學術のこころを志にひらぎ終日たり
 て死たがばれども皆理をばにまがもくもく心とけく
 よかり只まといへばおれまらみとかりて心身は
 くらうらんとけらんがもあうりきとわお若く二十人
 十人精識と戒て心法にうてまるとも天下れ精識何ぞたへや
 又心法學術よにて好んそ子とありらう人にま那
 うら人の精識にほらうも子孫のたまけ心友の益厚世の
 たり又まめに使なくまらうもまらうも俸位にわ
 びらうも合せんより六徳識又まを以て人のたごも精識

のまをまぬもらん八なり精識とひく素業經の
 むせとも何ぞ心法と學で身れまとせらんや六徳
 をひく素業經の責こが精識よほられあやまりら
 六徳は心法と捨く記誦詞誦のまをすす奴は心法
 と身といつてあをいふ一は精識とわかれとらん
 八なりすや精識を識あらん八なりは心法と素業
 せいとせど何のなは精識よあらんや精は國政と
 傑人八なり精識とまとせざすもまをまに
 よれ精識とあらん八なりは心法とまらりんま
 是わくド何乃蓋ありてうは舌のまよとまらとびは
 び女別の武士農工高といふも精あり識あり是あつ
 の八の蓋あつてつら精識とあらん心法とあ

今日の書をほくらく目に眩に驚けり死生まじ
おらんば又何とぞらんあつらふとバ傷むにきざり
て可なり

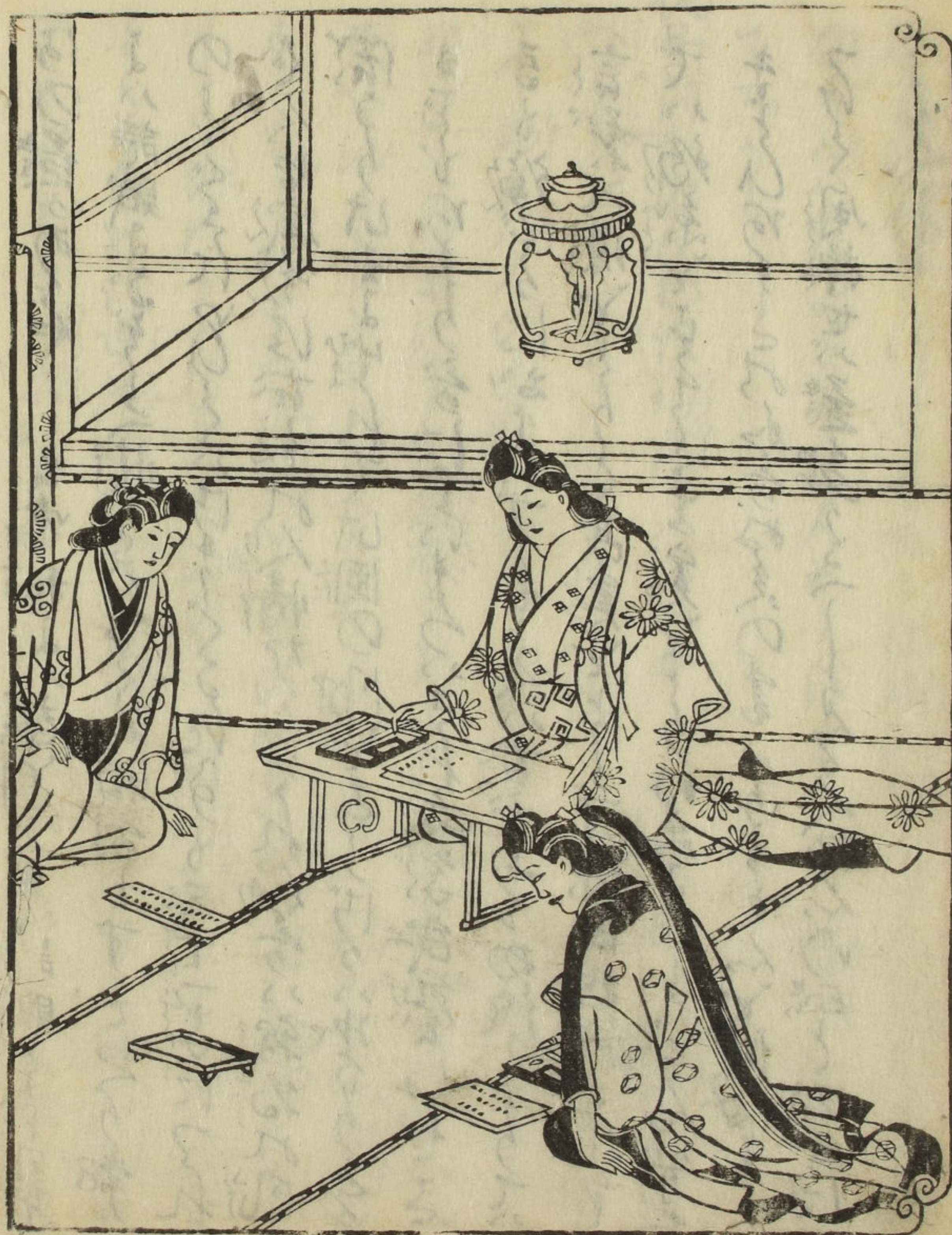
徒然草云源氏物語約集といはるや 云源氏の古風と云

一古実と云ふはちりあつらふといふもなとバ人様んご
一好又ハ人のまのじおりの書と云せしやんごあつら
好こと約集にしく教戒とたふバ漢文の何とあつて
莫とゆうごといつりあつても人実まに志の
そくや一故よま約集と云はばはるはる慶長に合とちと
一くあつらふといふもなと 同約集のまのじに合と
さくははるはる世に或は古今をみかたふと皆好文と
いふもまのじ約集なるや 云あつらふ 云あつらふ

何の書なるや

云中和よハ志とのごとく詩賦と一日本

よハ詩賦よおどろく情をのぞく大和歌とすとより新
のしとくにしひくはらるるも三十一字にけれ
を人皆感吟はたこれ人情なりそれわかの我物れ凡
俗よりけまはせられてけ國の凡とあつらふはゆりき
まどしちりあつらふといふもなとされ文藝武藝いおこさ
るも備ににおよばずめとくはあつらふ物はよりてハ
言葉の珠ととりて其美ととらず源氏物語よりて
てハ約集と云ふもなと好又よるるはん
きとひあつらふはあつらふの書とともんと備細り
るく用抄セバ益多るべしと云ふ人の心乃と不心に
しるべし



或同女子れ又まがはくまど娘への何ぞや 云是日本の

凡俗より男子の志あると云と云く終く一女子の修名

しくやと云く終くすそくくはまゝの男子と下る

あがとく一おれまはまらひつら一女の仕立来一うが

こと一女子に麻をト着せ男子とげ髪せはう一とん

源氏物語の所くやは同ん一うう女子のたまは

とく一とくのづらこく一とく一とく一とく一とく

いま一とく一とく一とく一とく一とく一とく一とく

がま一とく一とく一とく一とく一とく一とく一とく

或同く一とく一とく一とく一とく一とく一とく一とく

に一とく一とく一とく一とく一とく一とく一とく

げ一とく一とく一とく一とく一とく一とく一とく

云中一の婦女いややと心おはるまら一とく一とく

とく一とく一とく一とく一とく一とく一とく

だ一とく一とく一とく一とく一とく一とく一とく

又人の子なりと云はおりれ一夫つとよけ人とらづ

終り其幼子と云一とく一とく一とく一とく一とく

り其父母を身一とく一とく一とく一とく一とく

とく一とく一とく一とく一とく一とく一とく

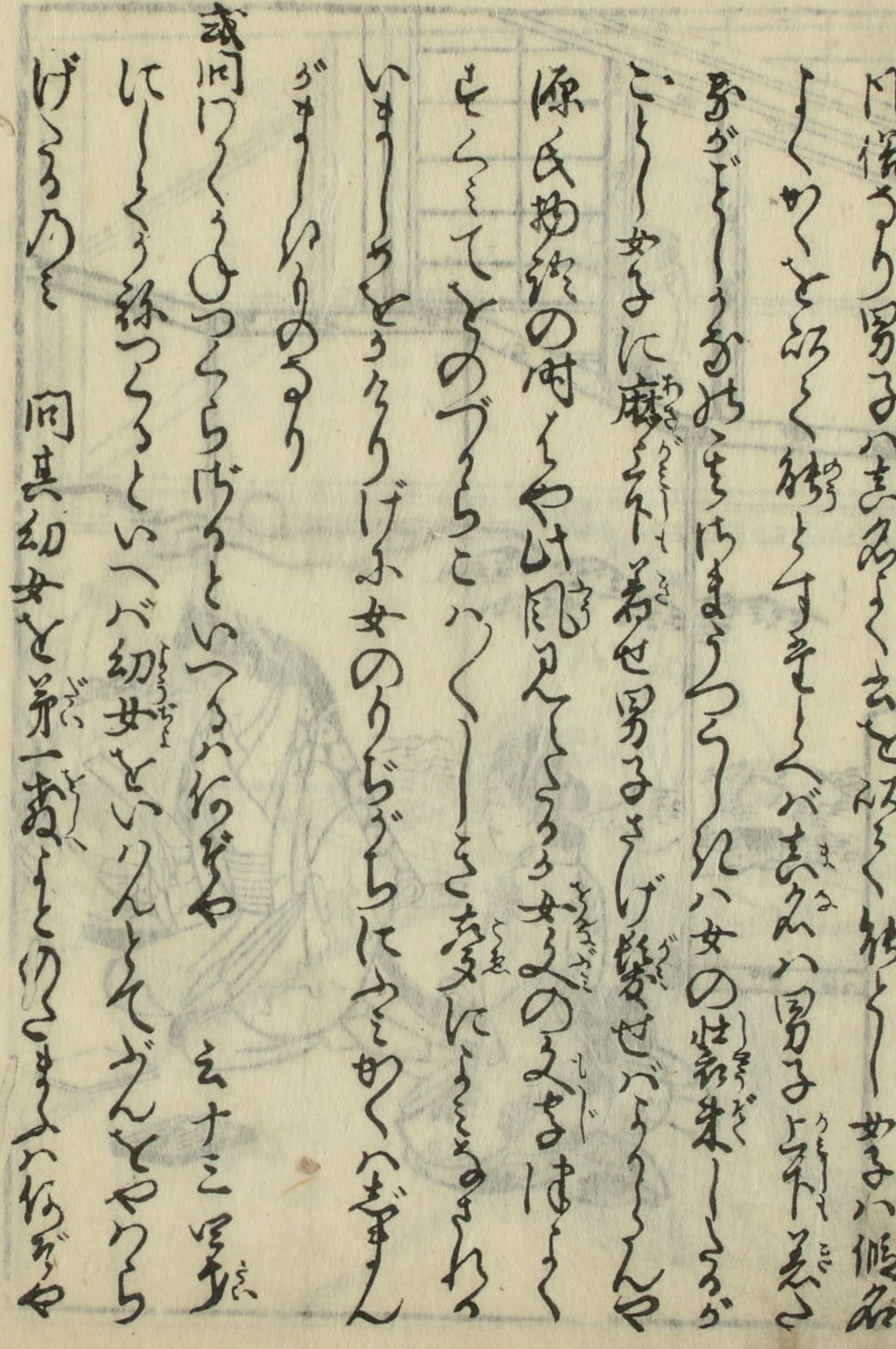
同と世の今一とく一とく一とく一とく一とく一とく

喜一とく一とく一とく一とく一とく一とく一とく

云教一とく一とく一とく一とく一とく一とく一とく

とく一とく一とく一とく一とく一とく一とく

さく一とく一とく一とく一とく一とく一とく一とく



あつげの女に凡俗のこころはく〜こころをいふまで
 懺悔せむけとぬく情とのづん申もはく〜こころをいふ
 こころ〜こころをいふ〜こころをいふ〜
 今や仕女〜こころをいふ〜こころをいふ〜
 若〜こころをいふ〜こころをいふ〜
 故よ俗傷の家より〜こころをいふ〜
 凡俗の心と〜こころをいふ〜
 世の人情と〜こころをいふ〜
 凡と〜こころをいふ〜
 と女のすつら〜こころをいふ〜

氣づ〜こころをいふ〜
 樹と〜こころをいふ〜
 く〜こころをいふ〜
 し〜こころをいふ〜
 憐〜こころをいふ〜
 こ〜こころをいふ〜
 ひ〜こころをいふ〜
 け〜こころをいふ〜
 ち〜こころをいふ〜
 や〜こころをいふ〜
 こ〜こころをいふ〜
 こ〜こころをいふ〜

貝合のきざひ何ぞく——んんん——さるね振ひとな
 きんは向ふもつ入は女さどいさりもねおのりなすま
 帯にきよのこたれせりくるものもそらんどの
 けせずいつとぬのからうさつと——さざりよそは
 びとらよまつんや男子の教問女子の教問其なるは
 きり 同形いさざりてのどくへは中流
 云々まが同ハま子と小人と一いを故は申どひわり言ま
 んがよ志すれ訓儀の

同形いさざりてのどくへは中流
 云々まが同ハま子と小人と一いを故は申どひわり言ま
 んがよ志すれ訓儀の



同志くばお人の借遣のうらと今されわし紀事女を
びあもくつら 云其おとあづけ色ハ赤信よら
をむし 櫻道中の今もうとくし 心おきさうくに
時死ゆあさゆしくゆれたるひ物と色信びも
てらもお付あさくくもあはさうし又いれ家
の凡と野おらうゆとあさ其女いしにをさる
事法知くおき書道の多づりになりあさよとれた
とふなりしとあさくく

従子同きあ親縁としりもあまいつの男にうらと
ふさげれとしりゆれととる色ハ女ゆらいなむら
大おれ人のあましりゆれにもしりゆれあましく奴僕
一人二人しりゆれあまの男にうらと

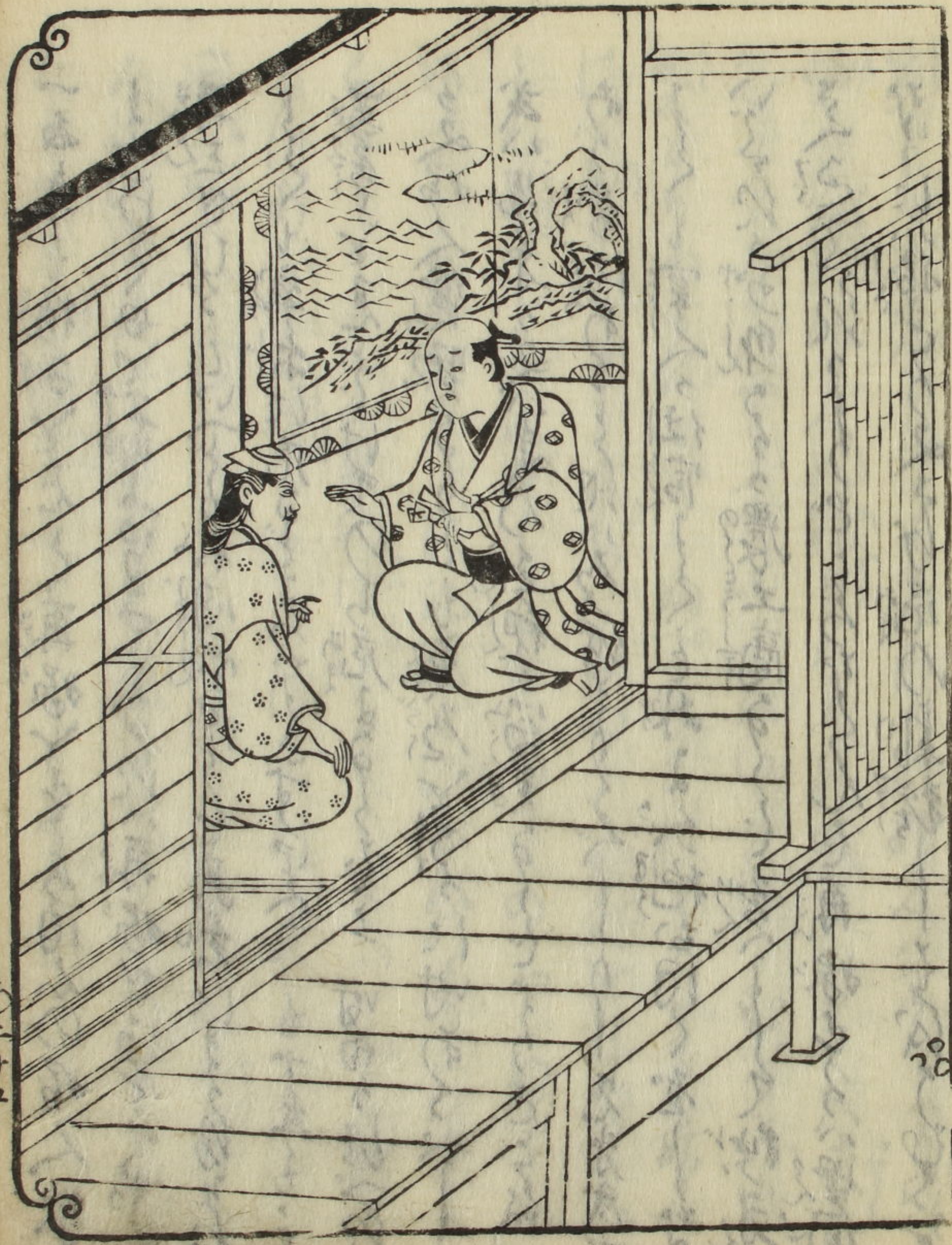
どもあれりのうらと今されわし紀事女を
云其おとあづけ色ハ赤信よら
をむし 櫻道中の今もうとくし 心おきさうくに
時死ゆあさゆしくゆれたるひ物と色信びも
てらもお付あさくくもあはさうし又いれ家
の凡と野おらうゆとあさ其女いしにをさる
事法知くおき書道の多づりになりあさよとれた
とふなりしとあさくく

男女おんなのこのつらぬとおひおひとて葎ワラのどくろくしてとめく
 つかひさうらひにけらくしひなごする女おんなに一人
 もつらふ上臈うしろうはもぶと声こゑにひさすらな
 ともいふも志こゝろちりひらふのうしてなほ那なが
 さまはいとす静しづかなるものあり男おとこ子こといふもは
 のいんぐらういんぐらうとて女子おんなとや奴僕やつやく一人とぶたつわ
 かめらほづの女おんなまよりとてもまもて人ひとありとてよまは
 らむ用もちずとぶらうぶらう用もちなれら男子おとこもききあし
 てとくばぬりのより女おんな音ねをさうみするごとくせむ抱かかひ
 てもあまうあまうとてさういひうわらげとて人ひと入いてあり
 とよほいほいとてさうわらひくわらぬら女子おんなハハ婦つま人ひと
 ぶ夏なつといとげくものもは辨わ舌げもわらひくわらぬら

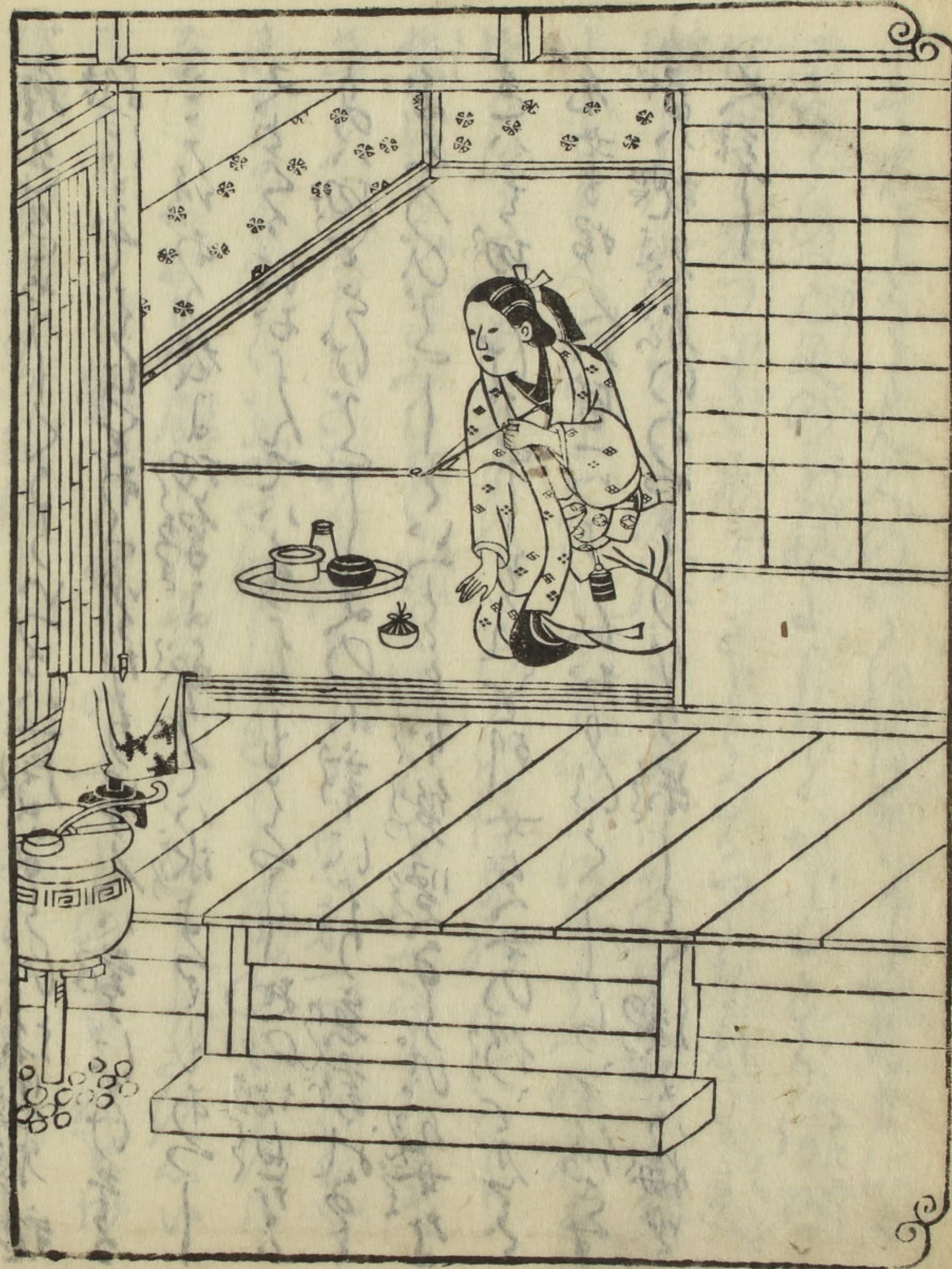
登のぼららん 同どう志しとておむかるのそありとてらん
 そらうととらうとて家いへ返かへまらうとてむらにあづま
 云い君子くんし何なにぞま子の道みちはまてくお人のりまんとおひわ
 お人おとこれはまもつひま子の病やまひなりお人のそありのまよの
 やまねたり 同どう志しとて言こととはくまらるつとくにあ
 らずや 云い仍いづとつらるつとひいんぐらうとてさうち
 ねと同どう志しとてまよ何なにのつとくまらるつとらん何なにの
 ともなりぬまらうとて老おと吾ご老らふ及およ人ひと老らふの端はしなり
 或ある同どう志し見みとらやうといひ 云いゆしておやに侍さむらい文ぶん分ぶんの
 まじりておひいひとてなれとていふなれとておひいひ
 とあつとておひいひとておひいひとておひいひとておひいひ
 用もちなれ女おんな子こハハおひいひとておひいひとておひいひ

してやんばいふらん人のつらねはあまのりきよによ
 りつらひつて父の親よむらぐちららる何れ
 何れと名つゞくがらふことごとくあらねども
 後一れやなりと親よむらぐちららる何れと名
 しいし人情はうまれも平政をいふ婦人を
 せうけいともあまのりきよのつらねはあまのり
 髪はふらふみづらぐちけいひびたにせむとせ
 せむらぐちららるつらねはあまのりきよと
 見せむらぐちららるつらねはあまのりきよと
 子にいづらひ居ては中くつらねはあまのり
 てさぐちららる髪とせむらぐちのつらねはあ
 び再び髪はらら乳糖とせむらぐちららる見

所色さやうくつらねはあまのりきよと
 親にまてららるつらねはあまのりきよと
 こころあり故は切字はあまのりきよと
 又とららるつらねはあまのりきよと
 の一切とせむらぐちららるつらねはあまのり
 おとらびとせむらぐちららるつらねはあまのり
 きよとせむらぐちららるつらねはあまのり
 九女も婦人のつらねはあまのりきよと
 八親も婦人のつらねはあまのりきよと
 人録



木上十五



木上十一

一由年し梅子とらんく再嫁とよち回んのか人い
まじりく母と共い男子もるれに再嫁せしむる可
再世せしむといども不問心すくも其意にまじり
くも幸亦に危むもなすす又年も十年も
其意と見とけそのら危むもまじり
又婦人愛賢よりとも又危むもまじりに時あつて
或ハ兄弟又ハ夫の親を富美らむもまじり
ありまはあつと地はなぬまじり
くも幸人仕官くも外は女抱おほくを
いざれつあつらつ農工商くも
まじりくも再嫁とらぬ
かまじり又さげ尾の親を
くも

笑下も老女へしつりつりつり婦人
ゆり粧ハ婦人れれなり礼儀なり
をけつ男乃やうもあつて
髪とりあつたつとぬ
け心むきつりつりつり
とと思へくも
何つち目にきつり
くくしつりつり
とはあつらつら
同三嫁いふ
人情のけつりつり
かり兄弟を親愛
つりつりつり

うくそくくも湯とらげてなりともまらさるるをい
 事なり婦人も感せりよ三嫁よとてんでいお
 りい切と海あづる三嫁よとていまい嫁さん
 とおりの好色より論ごらにぬすきもあはれ
 たりとも回わらぬ必ふまよさん志うぬ婦人
 のまゝいさぶこのよあはれぬさうさうらん
 同あつて何ぞ初に貞とほくえや へんたは
 い一乃送うく婦人のなかり易の坤云貞牝馬
 といりそら本とあはれは末とさまらぬ放よ
 又貞と愛の事なりと再嫁の愛は愛もつてさう
 同愛送い命とすは女のさうりていその地がうり
 地とさういへりや へん婦人さうい再嫁とらよ

其期をへ程身といえんくおぐさまなりは女と
 或いその海まらぬありくまこと海はあけり
 ち一我またごらありをよまらぬえはせ
 まららぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
 のりごらよちお一好色とかりてあくまらぬ
 とまらぬをいしうらうらあやまらぬぬぬぬ
 くらりのり婦人あはれらぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
 のりぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
 とおらぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
 によりて再嫁とらぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
 再嫁といぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
 とくぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ

婦人同云々盛の事と信れんとて皆女の乳養うんは
 まことひのりぞしらむもさしごとくやゆらん
 云其むよりうらうらとせしうゆ倍のあはれゆき
 これのいあしとまはゆゆくゆきとらうくゆ
 婦人は皆ゆきとらういさしゆきとらうゆき
 ありはゆきとらうゆきとらうゆきとらうゆき
 おまき人ありともあつとらうゆきとらうゆき
 ありはゆきとらうゆきとらうゆきとらうゆき
 じはゆきとらうゆきとらうゆきとらうゆき
 にもゆきとらうゆきとらうゆきとらうゆき

女はゆきとらうゆきとらうゆきとらうゆき
 一と子とゆきとらうゆきとらうゆきとらうゆき
 小あえとゆきとらうゆきとらうゆきとらうゆき
 他はゆきとらうゆきとらうゆきとらうゆき
 事ゆきとらうゆきとらうゆきとらうゆき
 くらんがゆき

婦人同云々の女の男まきとらうゆきとらうゆき
 ともいゆきとらうゆきとらうゆきとらうゆき
 心ゆきとらうゆきとらうゆきとらうゆき
 トにあゆきとらうゆきとらうゆきとらうゆき
 一とゆきとらうゆきとらうゆきとらうゆき
 事ゆきとらうゆきとらうゆきとらうゆき



ほど見るとくろくもなれど、をばせしむくまふどにハ
 ぬる人の物見あうくと田舎人のりのうとをれ
 さぬくもさるゆと、やうりゆこくもむじう桑
 搦女に、御同より、と文王に、右北太政の聖に
 概せ、一車詩経、百南、ハ、見く、侍り、は、ま、ど、も、じ、う
 ハ、武士、ま、ど、ハ、農、兵、な、り、一、ハ、や、一、ハ、も、庶、く、妻、妻、
 の、垣、ま、ど、に、繫、れ、き、と、ひ、と、う、て、あ、ま、と、ほ、く、
 々、ま、り、一、ハ、子、も、ん、は、ら、ら、一、侍、り、圍、門、よ、は、と、終、る
 申、ハ、い、ま、一、ハ、の、婦、人、情、あ、ら、ぶ、り、ハ、は、ら、と、ゆ、り、

ゆらりふらりとのまらるるにおほしきすしとら
にゆきごととそれハ波帯まにやゆりし武蔵の書
のやうにゆきばくも下したに侍とつらり賦類とて
とれたんぞに男子さくんに立ちまじりておまじり
文書海などいせむしうはとらんづらち又油屋に
はくろしどくい甲しぬ女子のおろろよそぞろてだ
樹のま後よ見とらまもなまあそりしとそれた
おとろとつらつらしぬとどろさをいひやぶしと
おらにわらわらなれににわかりしどそそらとま
らそいしとさち男子ハ所とほししとむ務ら
とのとらなる人ハ大それた役あり武蔵のりま
夏方にあまるほどの人もそれとららしとれま

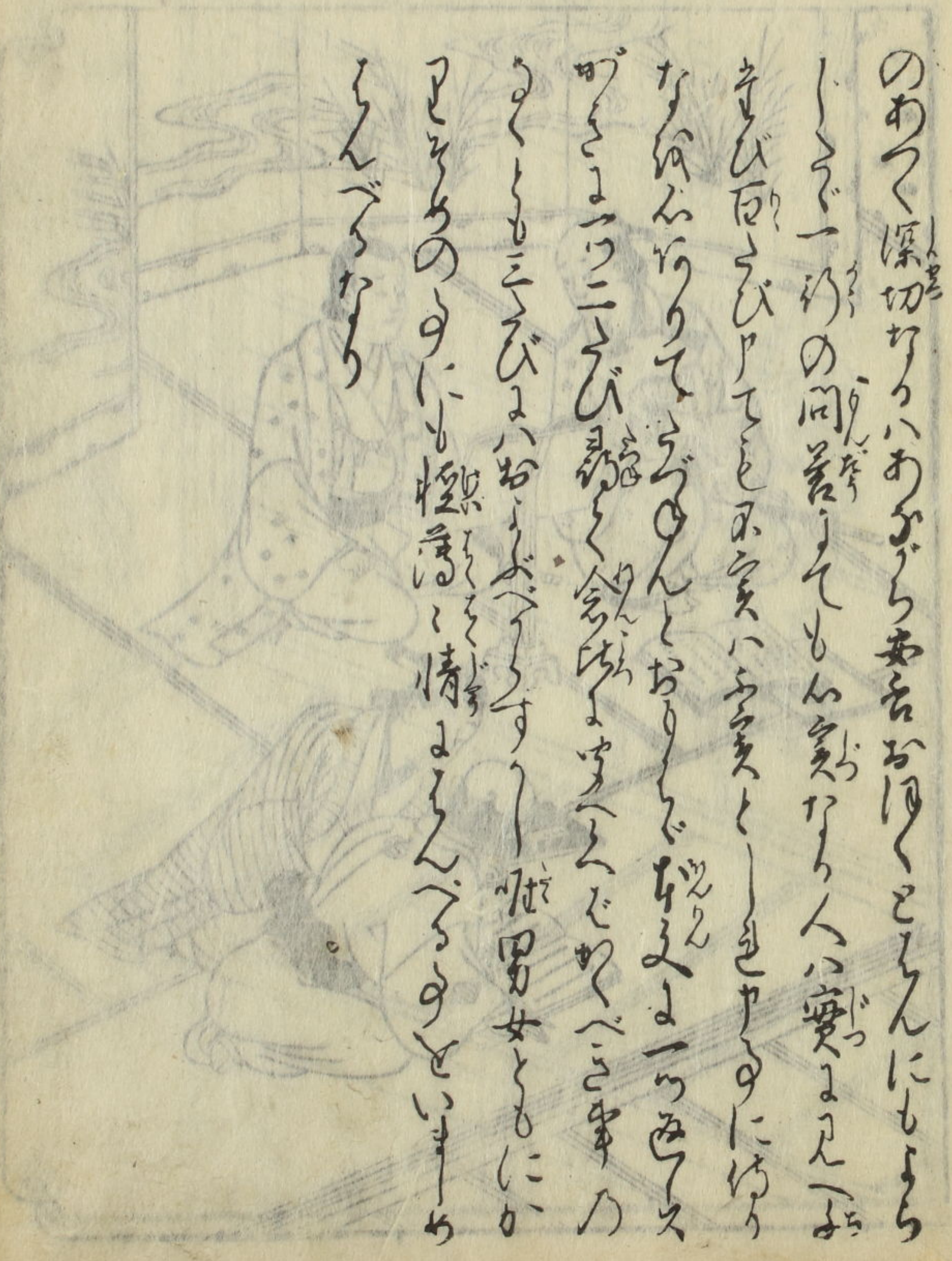
謝とけくらあとしき御禮甚将泰鞠おきとひ
しとく口いらくとも乃勢しとそと熱とやして日
をそとらんよハまそれと女あわつて月にもと
くハわらわしぬとらりそれと又咄れは情とら
さハ野かりましと女子ハ男子のどく廣く交
夏となく終はとカとらまもたうがとそれハせめてハ
窓のららにふはむらもあしぬとそとなぞとれ
へ又ハわらんかどらとらとそとそととそとそと
ひれとそとそとそとそとそとそとそとそとそと
くよとそとそとそとそとそとそとそとそとそと
はとらとそとそとそとそとそとそとそとそとそと
にもまにまどらとそとそとそとそとそとそとそと

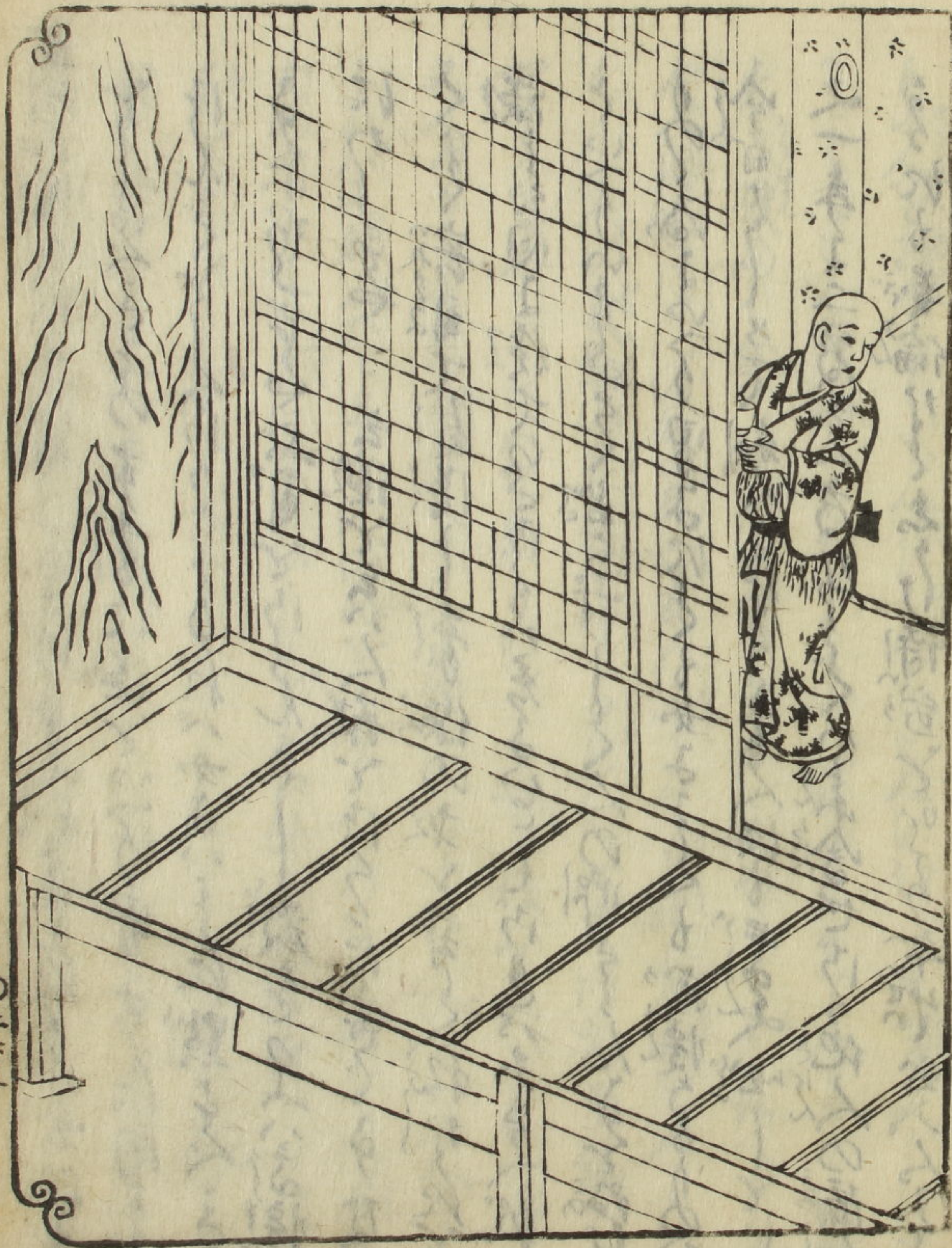
ら〜〜〜の婦人も〜〜〜
に乃と昔くらふトせむがらんすやあらずく〜
ト〜成るのよ〜くは〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜
ト〜はとありて〜と〜せむありひも〜ら〜ら〜ら〜
ま〜又〜と〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜
を〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜
ら〜ず〜や〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜
ト〜と〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜
小神こがみの志こころ〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜
て〜なり〜ひ〜ひ〜ひ〜ひ〜ひ〜ひ〜ひ〜ひ〜
は〜く〜は〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜
し〜ぞ〜く〜れ〜ま〜せ〜し〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜
〜紙かみと〜つ〜つ〜つ〜つ〜つ〜つ〜つ〜

〜紙とつつつつつつつつつつつつつつつつ
人〜〜〜と〜わ〜く〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜
勢いきほひが〜は〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜
て〜ら〜ら〜の〜ゆ〜り〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜
への〜を〜ま〜は〜あ〜お〜と〜へ〜も〜も〜く〜
怪あやしみ〜く〜へ〜か〜〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜
の〜も〜返かへる〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜
へ〜も〜や〜と〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜
は〜然しか〜く〜は〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜
ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜
あ〜ま〜し〜し〜し〜し〜し〜し〜し〜し〜し〜
は〜あ〜ん〜び〜づ〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜

華又ハ揚子ノ思ハリケルものよおんごせらよ
さうさうんゆねちひんごり 同女若ともく
くわいわいれとがはしうきとむにうきく
がれようはあしひと事半の係切はまよと祝
半のありさうハ結ぶや さいさうそんハおつま
いんごん又まうくわ人のいおんく何となふ
わく甲もさうずさうまふいさうくくはて
又うれおくおんとくハかまけりき出にが
おとうれおつりよさうさうさうさうさうさ
かさいしうりさうさうさうさうさうさうさ
さうさうさうさうさうさうさうさうさ
おまさいさうさうさうさうさうさうさ

のわつく深切わりのわおづらあおほくとらんにもよら
いさう一りの同若うてもんあかり人の愛よんよ
きびむさびりてもあまハあまさう色やめにけり
なぬんちりてさうおんとおりさうさうさ
おさうさうさうさうさうさうさうさ
さうさうさうさうさうさうさうさ
さうさうさうさうさうさうさうさ
さうさうさうさうさうさうさうさ
さうさうさうさうさうさうさうさ





南上坊五



南上坊四

或同不用りたるありしころの事又知らるるが如くは念はま
と一と云ふ事の事書に道とあり男子がた内
ほんどとくはりしころれば女子はた黙と云ふこ
ろにづらざるは道と云ふこと一教をりては道
にわらざる 云道と云ふ人教と云ふにせざるな
くも密用て自得一豪傑の如くと用く私なりと
漢と云ふは漢でござらざるは女子はことばはあはれ
といふいまはさくおらざる一人の作らざるを
めめよいつり男子はくも女子はくも我懐らるりの
今日もどして知人よなりし人にもその又世しとし
又一年よりなるに成なるくは素念せざる他人の隔ん
るにも義倫なとあけ待たるとあり平也出入人

と云ふとおぼしめてんより思ふとせぬいしよ。學子一
るしてこそんす地ぞうとらるるさひりりおとふまとい
志す懐のそふたてしれりあると又わくくは
人の同志同門のそま友心友れ同しと我教めと如くか
く一人の義論の長短とやあかく心友同志義倫あ
やまるとさうしてはかたのめと心はあはれと云ふ
又人ありし書の教は又おをめてもあはれこのころあり
これ又我教と云く人の如くさうさうのさう何ぞ同志心
友の中しははばにさひりしとさひりしとに若とつげ
益とさうさうん女子はくも中しんしを教せり
我といひくかありしはさうさうし中にては
何ぞお情とらばさうさうしを若らりしと云ふ

あらめのそゆりされり海人はほろるとれハハに
 せれふたよがりて人をちまどるなりあささいと怒り
 けしきみふれよぬきひおほー海切よおとつるを
 美よも海まぶりの八十人が中にいさしく一人二人もく
 ちんづんちんれども養育りたのり人よもをま
 とれづりてさみりあさるる一多まなる人たり
 仁敷わさる^{おとけ}とま^{おとけ}海^{おとけ}おとけさるるもけくハ^{おとけ}
 のつれまけのそそわさるる一それさるりて女^{おとけ}
 皆むがかりとる^{おとけ}おとけいひーうさく^{おとけ}おとけ
 おとけおとけの女におほもさるる一み^{おとけ}おとけ
 になむ

